

# 意商(V3)システム刷新プロジェクトについて

2021年3月15日

意商(V3)システム刷新プロジェクト

## ■V3システム刷新の要件再整理・スケジュール変更について

- 要件再整理のため、スケジュールを見直し、調達の開始を1年遅らせる。
- システム刷新の基本方針である「**システム構造の定型化**」及び「**データの集中化**」(特許庁アーキテクチャ標準への準拠)を遵守しつつ、次の取組を行うことで、開発規模の抑制を図る。

### ①要件の見直し

- ・手続書類のXML化は見送る。
- ・システム化範囲や業務機能を個々に再精査し、削減や見直しを行う。
- ・上記の見直しにあたって、手続書類は変更しない。

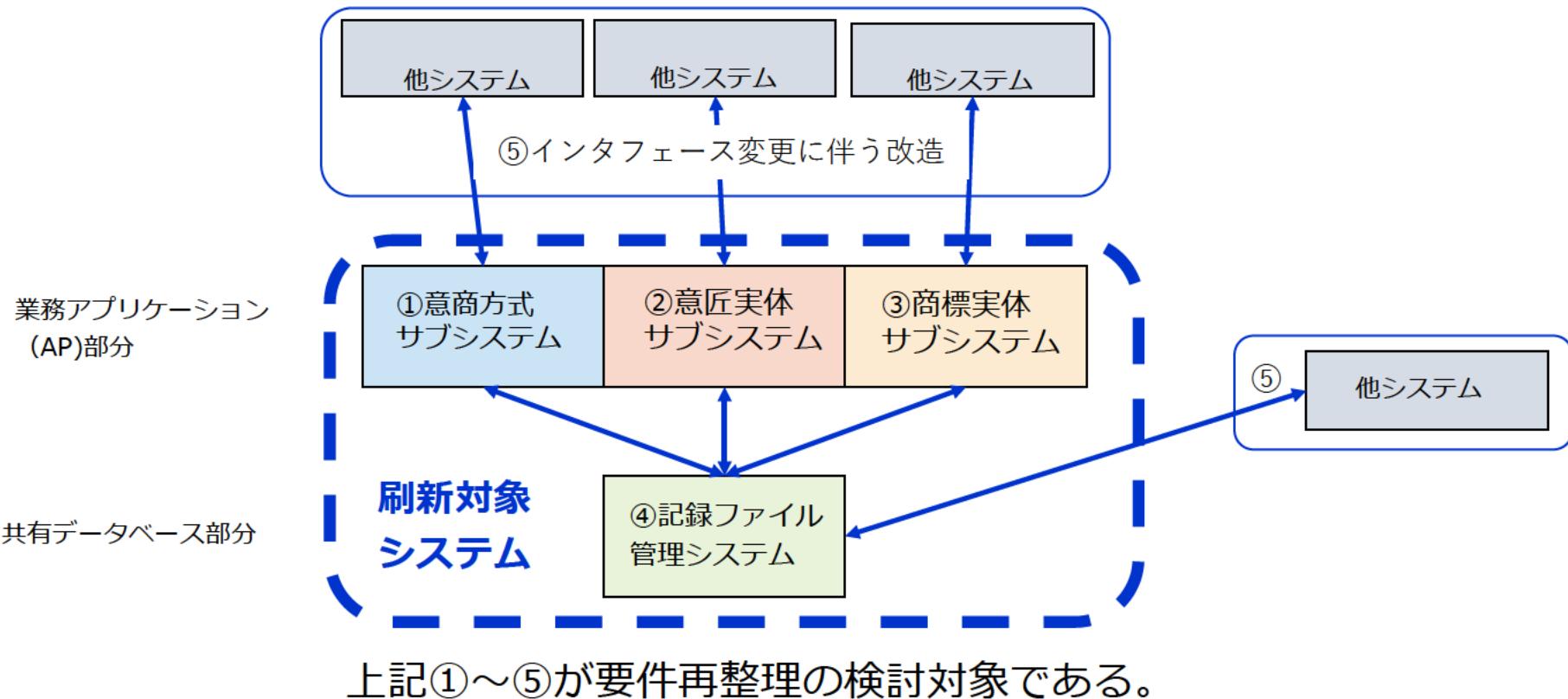
### ②設計開発における生産性の向上

- ・特実審査業務システム刷新の成果物(方法論、設計・プログラム等)を活用する。
- ・特実審査業務システム刷新の知見等を踏まえて、構築プロセスの見直し(テスト・移行の省力化等)を図る。

### ③HW調達の方針

- ・同じ汎用OSを持つ複数のシステムが使用するサーバについて、HWを一括で調達することにより、システム毎にAPとHWとを一括で調達する場合と比して、機器の集約化及び運用経費の削減を図る。

## 2.V3システムについて



- ①意商方式サブシステム：意匠・商標の方式審査を行う。
- ②意匠実体サブシステム：意匠の実体審査を行う。
- ③商標実体サブシステム：商標の実体審査を行う。
- ④記録ファイル管理システム：①～③が用いる共有データを保持する。
- ⑤他システム：①～④とインターフェース(IF)を持つシステム。

### 3.1.開発費の試算 機能削減の手順

- 長官指示のもと、ユーザ原課において、政省令等の改正も視野に業務の簡素化、必須でない機能の削減、システム化範囲の縮小、システムの一部内製化等について検討。

- 刷新対象システムの要件(機能、画面)について、以下の基準に基づき、ホワイト、グレー、ブラックに仕分け。

ホワイト： 明らかに業務の継続に必要不可欠なもの。具体的には、

- (1) 自システム・他システムの動作の契機になるもの。
- (2) DBに情報を記録しているもの。

グレー： ブラック、ホワイトのいずれでもなく廃止した場合の代替案、人的負担を含めて検討を行うもの。

ブラック： 廃止しても業務を継続できるもの。既に不要となっており廃止できるもの。

- 一旦、ホワイト、グレーに仕分けられたものについては、更に以下の対応により、ブラックとすることを検討。

- (a)必要性の低い機能や画面は削除。
- (b)同様の画面は1つの画面に集約、簡素化。
- (c)他システムの機能・画面により代替。
- (d)内製ツールや手運用により代替。

- 最終的にグレーに仕分けられたものについては、システム化しない場合に必要となる人的負担を算出し、システム化した場合にかかる費用と比較・検討することで、システム化範囲を決定。

- 现行V3システムの設計書等、既存資産の活用を検討。

#### ■刷新の目的

既存システムの複雑なシステム構造を簡素化し、**改造に強くする。**

 **アーキテクチャ標準**を策定し、アーキテクチャ標準に準拠するようにシステムを刷新する。

#### ■現行V3システムの特徴

- システム構造が**アーキテクチャ標準に近い**。  
→ 一部の変更でアーキテクチャ標準に準拠できる（後述）。
- 基本設計書・詳細設計書等が**比較的整備されている**。

 現行V3システムの設計書を一部活用\*して後続工程を行う。

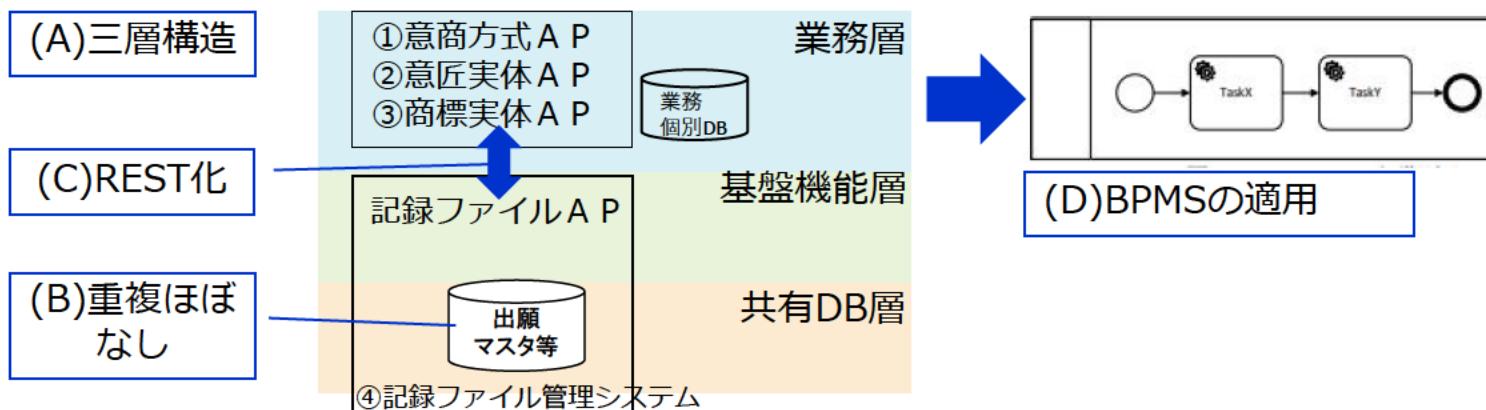
\* 新規に作成する画面設計、現行システムから変更になる部分等は、基本設計が必要になる想定

### 3.1.開発費の試算 既存資産の活用による工数の削減（2）

#### ■V3システムとアーキテクチャ標準との関係

| アーキテクチャ標準の主なポイント        | V3システムとの関係                                     |
|-------------------------|--|
| (A)業務層、基盤機能層、共有DB層の三層構造 | 既に業務層、基盤機能層、共有DB層に分かれている。                      |
| (B)データの集中化（重複データ排除）     | 既に重複データがほとんど存在しない。                             |
| (C)通信方式の統一              | 今はV3システムの通信にCORBAを利用。<br>→ 刷新時にRESTに変更。        |
| (D)BPMSの適用              | 今はビジネスプロセス管理にWCFを利用。<br>→ 刷新時にBPMNを利用することを検討中。 |

刷新V3システムをアーキテクチャ標準に準拠させるための変更は (C) , (D) のみでよい。



➤ ④記録ファイル管理システム、⑤IF変更に伴う他システムの改造について、必要最小限の改造に抑制。

#### ■ ④記録ファイル管理システム

- ・HP-UXからLinuxへのOS変更
- ・RESTインターフェースの追加

等、必要最小限の変更のみを行う。

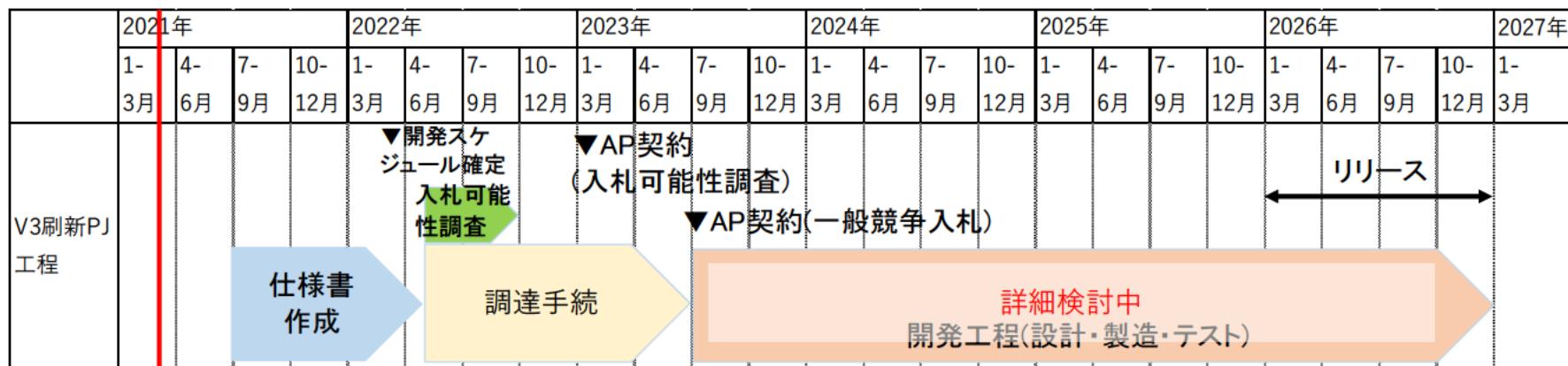
#### ■ ⑤インターフェース変更に伴う他システムの改造

- ・情報提供に大幅な改造が生じないマスタ構成を採用
- ・DWHへの影響を最小化するマスタ構成を検討  
→ 他システムの改造を最小限に抑制

## 4.今後の検討事項

- V3システム刷新は、HP-UXのサポート終了\*前の2027年1月までにリリースできる見込み。
- 開発スケジュールの精査を実施し、スケジュールの短縮を検討。
- 更なる開発費の削減のため、開発効率の向上について検討を継続。

\* HP-UXのサポートは2028年12月末まで提供予定。



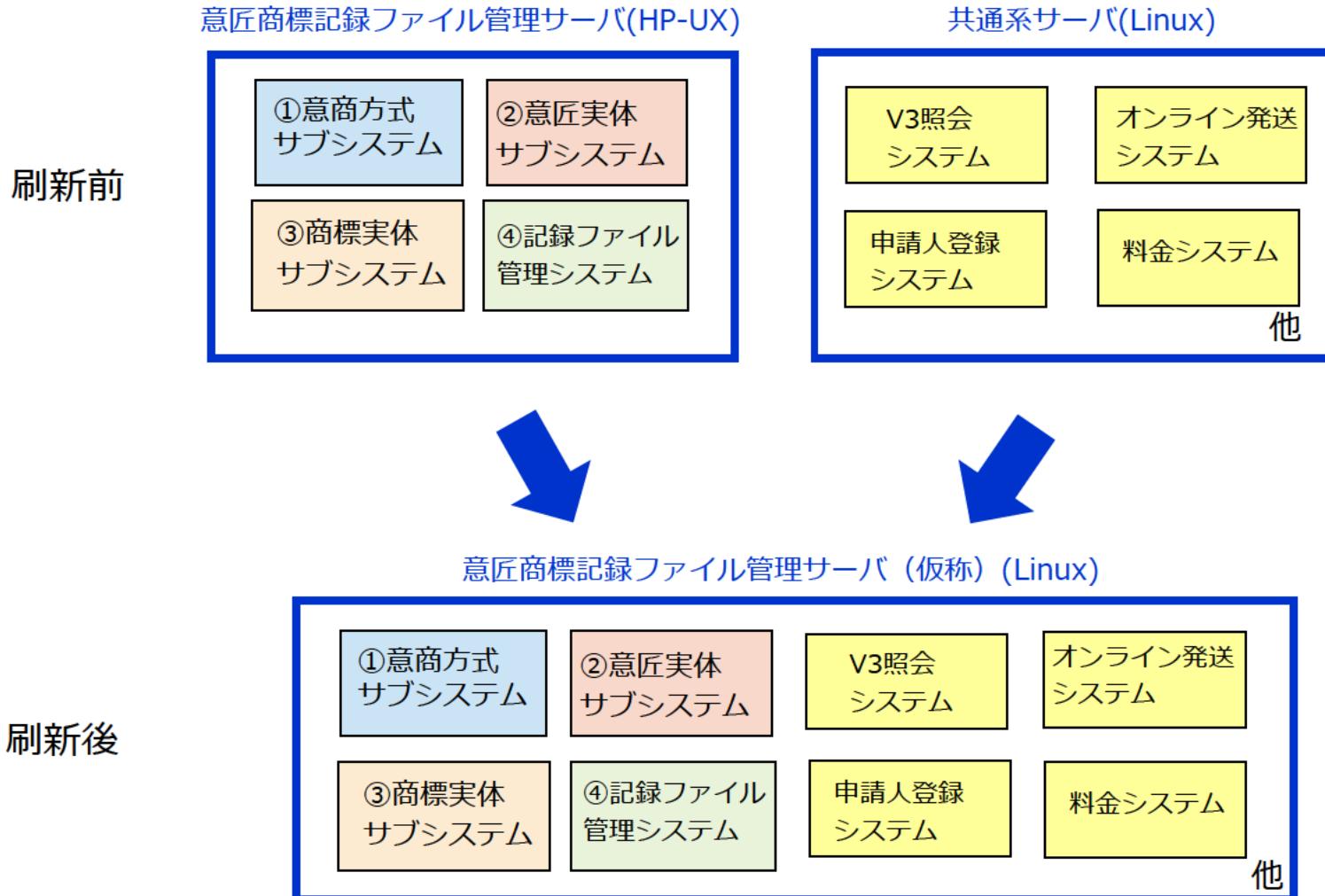
- 更なる開発費の削減を目指し、今後は以下の検討を行う。
- 他刷新の成果の活用 (4.1で説明)
- HWの集約化 (4.2で説明)

## 4.1.今後の検討事項 他刷新の成果を活用

- 他刷新の成果を活用し、開発費の削減について検討。
- 先行する特実審査業務システム刷新等を振り返り、成果（設計書等のフォーマット、共通部品、テストケース、設計プロセス等）の活用を検討
- 審判システム刷新を参考に経費を削減する手段（高速画面開発ツール等、サービスレベルの緩和）について検討

## 4.2.今後の検討事項 HWの集約化

- V3システム①～④と他の既存システムのHWを一括で調達することで、機器を集約し、運用経費を削減。



要件再整理を行った審判システム刷新を参考に、  
V3システム刷新では以下の事項について今後検討を行う。

|                      | 審判システム刷新   | V3システム刷新   |
|----------------------|--|--|
| 業務支援ツールの内製による作業負担の低減 | 内製化ポリシーに基づき作成  | 審判システム刷新の内製化ポリシーを参考に今後検討   |
| 周辺システムへの影響抑制         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・手続書類XML化の見送り</li> <li>・不要な新規IFの廃止、既存IFの継続利用</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・手続書類XML化の見送り</li> <li>・不要な新規IFの廃止、既存IFの継続利用</li> <li>・DWH、外部提供への影響を最小化するマスタ構成を今後検討</li> </ul>                    |
| AP開発効率               | 高速画面開発ツール等の利用  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高速画面開発ツール等は、調達仕様書作成時に、審判システム刷新を参考に利用の要否を今後検討</li> <li>・既存設計書の活用</li> <li>・特実審査業務システム刷新の成果物の活用について今後検討</li> </ul> |
| 運用経費の削減              | 冗長化の廃止、CPU数の抑制   | HWを導入する際に、審判システム刷新を参考に今後検討(AP/HW分離調達を予定)   |

ホワイト、グレー、ブラックとした機能の具体例

|       | ホワイト                     | グレー  | ブラック   |
|-------|--------------------------|--|--|
| ①意商方式 | 目視審査<br>方式審査の記録<br>起案・決裁 | 機械チェック<br>手数料計算<br>自動方式審査                    | 新規性喪失の例外<br>出願時の特例<br>未処理状況照会<br>機械審査エラー照会<br>職員管理テーブルメンテナンス |
| ②意匠実体 | 起案・決裁                    | 公報発行支援<br>審判案件振分                             | 分類付与業務<br>レアケースの管理機能<br>進行伺いの書類・機能<br>品質監査                   |
| ③商標実体 | 起案・決裁                    | 警告表示<br>特別指定案件管理指定<br>審査官単位分担変更<br>強制ステータス変更 | 分類付与業務<br>レアケースの管理機能<br>進行伺いの書類・機能                           |